

## 和歌山県水難救済会救難支所海難救助実地訓練 に併せ救命胴衣着用体験を行いました

和歌山海上保安部、海南海上保安署では、10月5日及び同12日、和歌山県水難救済会支所による海難救助実地訓練を指導しました。

今回実地訓練を実施したのは、海南漁業協同組合下津支所、同大崎支所及び比井崎漁業協同組合支所の3支所で、参加者は、63名を数えました。

当日は、当部及び海南海上保安署職員による訓練の指導や海難防止講習、各種救命胴衣の着用体験等を行いました。

漁業者に対しては、操業中の救命胴衣の着用について指導していますが、以前から操業中に救命胴衣が漁具等に引っかかり作業に支障があるなど不評であり、合羽の内側に装着できないか等の意見が寄せられたこともありました。

当部では、その都度正しい着用方法の重要性を説明していますが、なかなか理解が得られないことから、今回、実際に合羽の内側に膨張式救命胴衣を着用しての落水体験も行うこととしました。

体験者からは、「膨張するまでに相当時間がかかり不安であった。」「首が膨張した救命胴衣と合羽に圧迫され、呼吸が苦しくなる。」等正しい着用方法の重要性についての感想が出されるなど、訓練指導を通じ、救助技術の向上のみならず、組合員自身への自己救命策確保の重要性についての啓蒙も図られました。





海南漁業協同組合下津支所・同大崎支所の皆さん



海南漁業協同組合下津支所・同大崎支所の皆さんによる訓練の様子



比井崎漁業協同組合支所の皆さん



比井崎漁業協同組合支所の皆さんへの各種膨張式救命胴衣の説明